

北見市における景気動向調査報告書

< 第 III 四 半 期 >

北見商工會議所

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

- (1) 調査時点 令和8年1月26日
- (2) 調査対象期間 令和7年10月～12月期実績および令和8年1月～3月期見通しについて調査した。

2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社をインターネット(Google forms)、FAXにより調査した。

3. 回収状況

| 業種 | 企業数 | 対象企業数 | 回答企業数 | 回答率 |
|-------|------|-------|-------|-------|
| 製造業 | 30社 | 26社 | 26社 | 86.7% |
| 建設業 | 30社 | 27社 | 27社 | 90.0% |
| 卸売業 | 30社 | 27社 | 27社 | 90.0% |
| 小売業 | 35社 | 29社 | 29社 | 82.9% |
| サービス業 | 25社 | 17社 | 17社 | 68.0% |
| 合計 | 150社 | 126社 | 126社 | 84.0% |

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

II . 概 情

《全 体 の 動 き 》

令和7年度第Ⅲ四半期<10月～12月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」27.0%、「悪化企業」35.7%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△8.7となっています。

前年同期(△8.7)との比較では、D・I値は同値となっており、横ばいの結果となっています。また、前期調査<令和7年度第Ⅱ四半期>と比較してみると前回△1.8→今回△8.7と6.9ポイント悪化しました。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△34.6、建設業D・I値△11.1、卸売業D・I値14.8、小売業D・I値△13.8、サービス業D・I値5.9となっています。前年同期調査と比較すると、卸売業で35.6ポイントの大幅な改善を示した一方、製造業で18.6ポイント、建設業で6.6ポイント、小売業で6.4ポイント、サービス業で5.2ポイントの悪化を示しました。

来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」15.9%、「悪化企業」34.1%でD・I値△18.2と、前年同期見通し(△24.2)に比べ6.0ポイントの改善傾向を示しています。

《業種別の動き》

1) 製 造 業

生 产 高

前年比で「増加企業」20.0%、「減少企業」52.0%、D・I値△32.0と前年同期(△25.0)に比べ7.0ポイントの悪化となりました。

採 算

前年比で「好転企業」20.0%、「悪化企業」40.0%、D・I値△20.0と前年同期(△25.0)に比べ5.0ポイントの改善となりました。

来期見通し

業況D・I値△38.5(前年同期△32.0)、生産高△46.2(同△20.9)、資金繰り△28.0(同△24.0)と前年同期に比べ、全て悪化を示し、特に生産高は大幅悪化の見通しとなっています。

前年同期比



来期見通し



2) 建設業

完成工事高

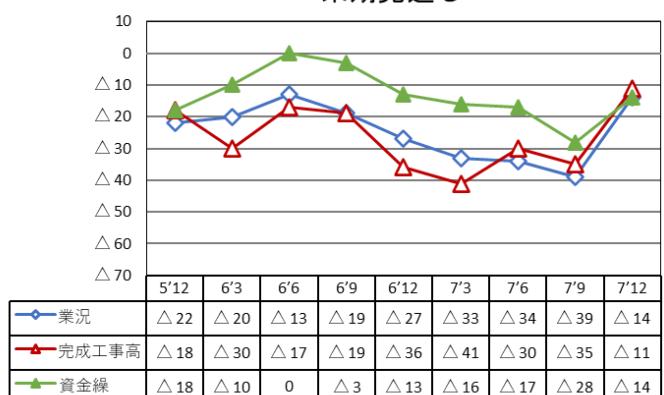
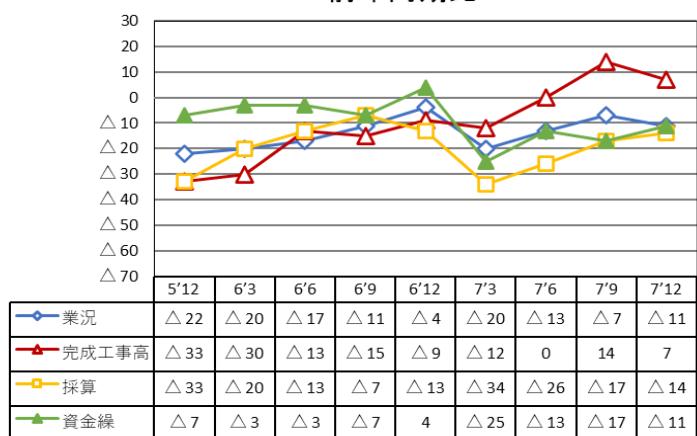
前年比で「増加企業」40.7%、「減少企業」33.3%、D・I値7.4と、前年同期(△9.1)に比べ16.5ポイントと改善傾向を示し、D・I値がマイナスからプラスに好転する結果となりました。

採算

前年比で「好転企業」29.6%、「悪化企業」44.4%、D・I値△14.8と、前年同期(△13.7)に比べて1.1ポイントのわずかに悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△14.8(前年同期△27.3)、完成工事高△11.1(同△36.4)、資金繰り△14.8(同△13.6)と前年同期と比べ業況、完成工事高は改善、資金繰りはわずかに悪化の見通しになっています。



3) 卸売業

売上高

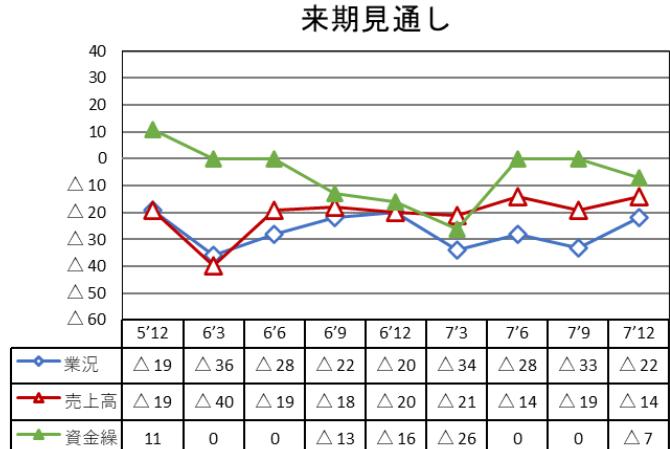
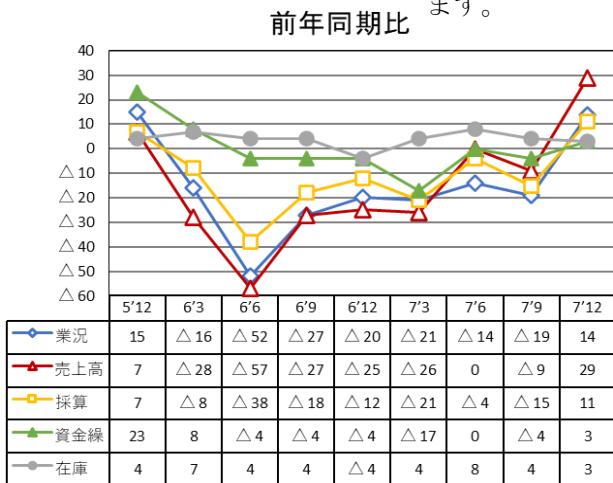
前年比で「増加企業」48.1%、「減少企業」18.5%、D・I値29.6と前年同期(△25.0)と比べ54.6ポイントとD・I値がマイナスからプラスに転じる大幅な好転となりました。

採算

前年比で「好転企業」33.3%、「悪化企業」22.2%、D・I値11.1と前年同期(△12.5)に比べ23.6ポイントとD・I値がマイナスからプラスに転じる大幅な好転となりました。

来期見通し

業況D・I値△22.2(前年同期△20.9)、売上高△14.8(同△20.8)、資金繰り△7.4(同△16.6)と前年同期に比べ業況は悪化したものの、売上高、資金繰りでは改善の見通しとなっています。



4) 小売業 売上高

前年比で「増加企業」27.6%「減少企業」41.4%、D・I値△13.8と前年同期(0.0)に比べ13.8ポイントの悪化傾向を示しました。

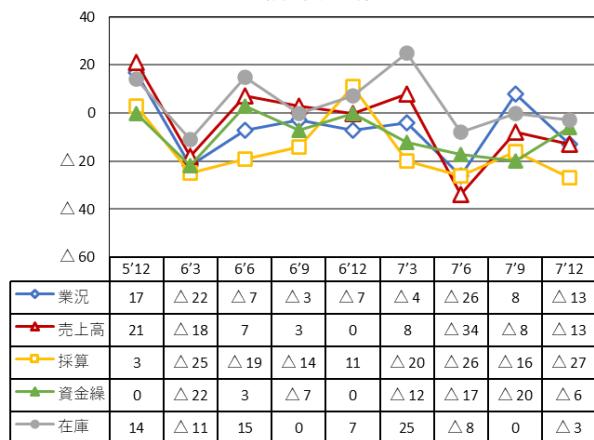
採算

前年比で「好転企業」17.2%「悪化企業」44.8%、D・I値△27.6と前年同期(11.1)から38.7ポイントの大幅な悪化傾向を示し、D・I値がプラスからマイナスに転じる結果となりました。

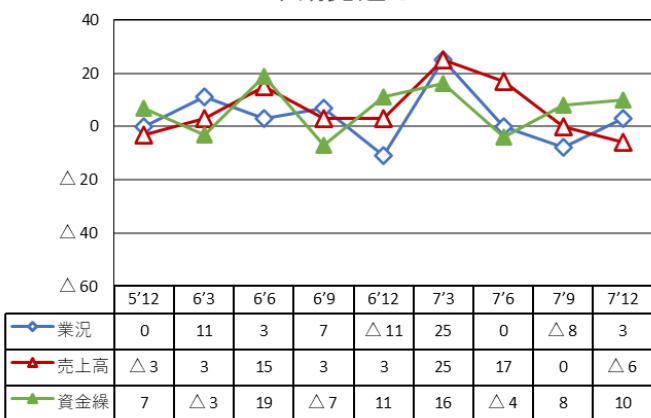
来期見通し

業況D・I値3.4(前年同期△11.1)、売上高△6.9(同3.7)、資金繰り10.3(同11.1)と前年同期と比べ業況は好転を示したものの、売上高、資金繰りは悪化の見通しとなっています。

前年同期比



来期見通し



5) サービス業 売上高

前年比で「増加企業」41.2%、「減少企業」29.4%、D・I値11.8と、前年同期(△5.6)に比べ17.4ポイントの改善を示し、D・I値がマイナスからプラスへと好転する結果となりました。

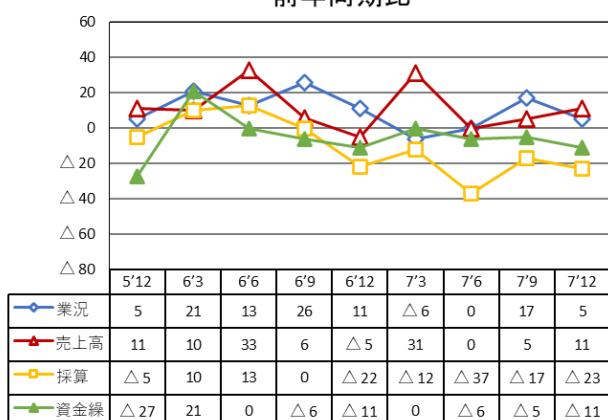
採算

前年比で「好転企業」23.5%、「悪化企業」47.1%、D・I値△23.6と前年同期(△22.2)に比べ、1.4ポイントのわずかに悪化傾向を示しました。

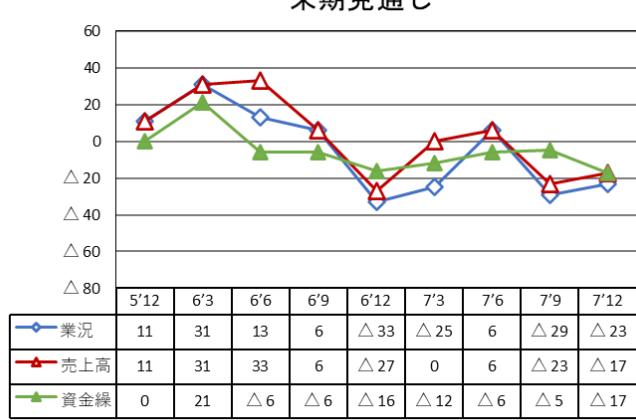
来期見通し

業況D・I値△23.6(前年同期△33.3)、売上高△17.7(同△27.7)、資金繰り△17.6(同△16.7)と前年同期に比べ業況、売上高は改善を示し、資金繰りはわずかに悪化する見通しとなっています。

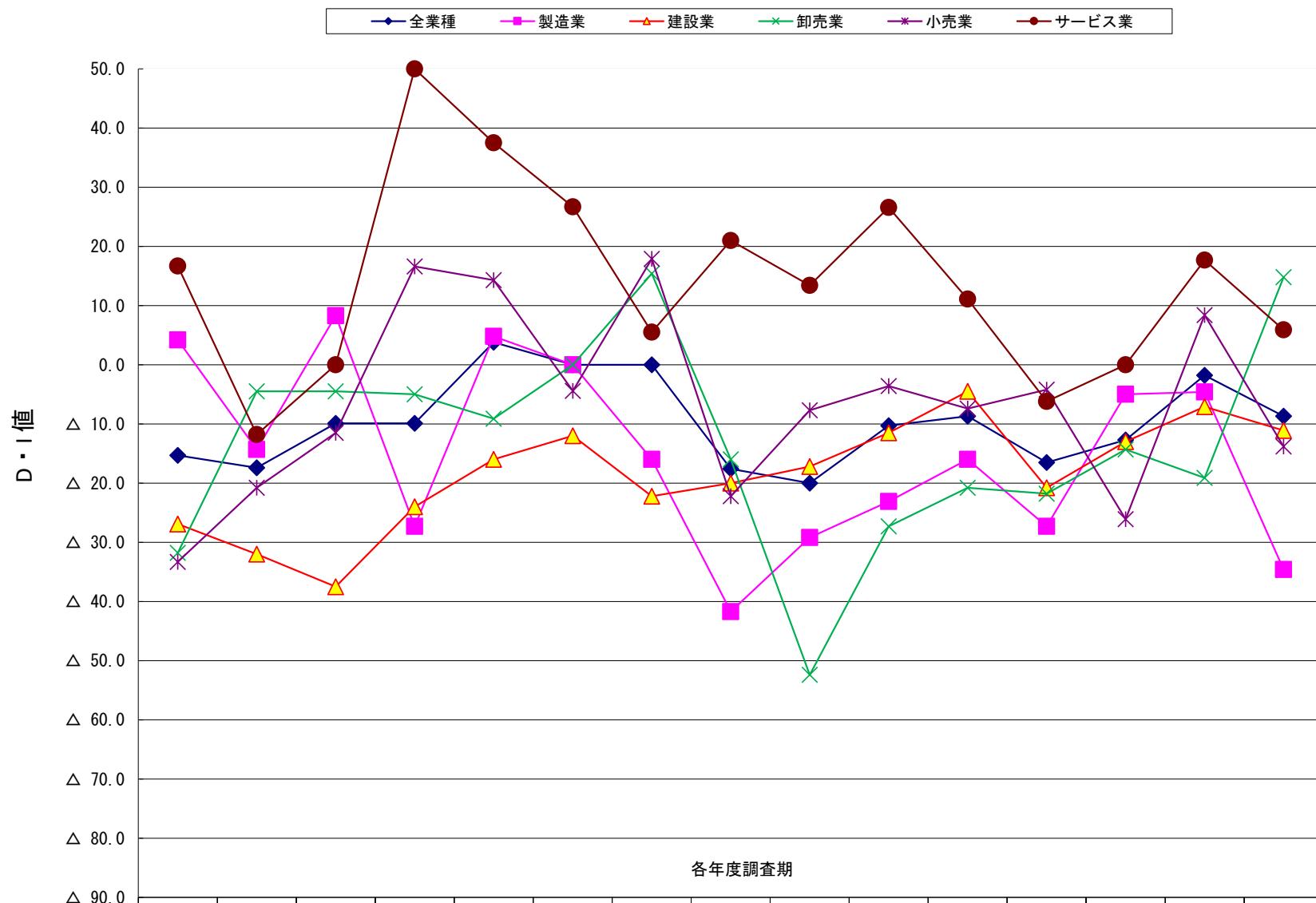
前年同期比



来期見通し



各年度調査期における業況（前年同期比）のD・I値の比較



| | 4.4~4.6 令和4年度 I | 4.7~4.9 令和4年度 II | 4.10~4.12 令和4年度 III | 5.1~5.3 令和4年度 IV | 5.4~5.6 令和5年度 I | 5.7~5.9 令和5年度 II | 5.10~5.12 令和5年度 III | 6.1~6.3 令和5年度 IV | 6.4~6.6 令和6年度 I | 6.7~6.9 令和6年度 II | 6.10~6.12 令和6年度 III | 7.1~7.3 令和6年度 IV | 7.4~7.6 令和7年度 I | 7.7~7.9 令和7年度 II | 7.10~7.12 令和7年度 III |
|-------|-----------------------|------------------------|---------------------------|------------------------|-----------------------|------------------------|---------------------------|------------------------|-----------------------|------------------------|---------------------------|------------------------|-----------------------|------------------------|---------------------------|
| 全業種 | △ 15.3 | △ 17.4 | △ 9.9 | △ 9.9 | 3.8 | 0.0 | 0.0 | △ 17.6 | △ 20.0 | △ 10.3 | △ 8.7 | △ 16.5 | △ 12.7 | △ 1.8 | △ 8.7 |
| 製造業 | 4.2 | △ 14.3 | 8.3 | △ 27.3 | 4.8 | 0.0 | △ 16.0 | △ 41.7 | △ 29.2 | △ 23.1 | △ 16.0 | △ 27.3 | △ 5.0 | △ 4.6 | △ 34.6 |
| 建設業 | △ 26.9 | △ 32.0 | △ 37.5 | △ 24.0 | △ 16.0 | △ 12.0 | △ 22.2 | △ 20.0 | △ 17.2 | △ 11.5 | △ 4.5 | △ 20.8 | △ 13.0 | △ 7.1 | △ 11.1 |
| 卸売業 | △ 31.8 | △ 4.5 | △ 4.5 | △ 5.0 | △ 9.1 | 0.0 | 15.4 | △ 16.0 | △ 52.4 | △ 27.3 | △ 20.8 | △ 21.8 | △ 14.3 | △ 19.1 | 14.8 |
| 小売業 | △ 33.3 | △ 20.8 | △ 11.5 | 16.6 | 14.3 | △ 4.4 | 17.9 | △ 22.2 | △ 7.7 | △ 3.6 | △ 7.4 | △ 4.2 | △ 26.1 | 8.4 | △ 13.8 |
| サービス業 | 16.7 | △ 11.8 | 0.0 | 50.0 | 37.5 | 26.7 | 5.5 | 21.0 | 13.4 | 26.6 | 11.1 | △ 6.2 | 0.0 | 17.7 | 5.9 |

業種別 経営上の問題点

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|-------|------|------|-------|---------|---------|
| 製造業 | 諸経費増 | 人件費増 | 人材不足 | 得意先減少 | 同業者間の競合 |
| 建設業 | 人材不足 | 諸経費増 | 人件費増 | 同業者間の競合 | 得意先減少 |
| 卸売業 | 諸経費増 | 人件費増 | 人材不足 | 得意先減少 | 同業者間の競合 |
| 小売業 | 諸経費増 | 人件費増 | 得意先減少 | 人材不足 | 同業者間の競合 |
| サービス業 | 諸経費増 | 人件費増 | 人材不足 | 得意先減少 | 同業者間の競合 |
| 合計 | 諸経費増 | 人件費増 | 人材不足 | 得意先減少 | 同業者間の競合 |

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

全業種でみると、1位「諸経費増」、2位「人件費増」、3位「人材不足」となっており、前年同期からみると、2位と3位の順位が入れ替わりました。

また、業種別のトップ回答は前年調査時から変動がなく、地域にとって慢性的な課題となっていることが伺えます。

業況

製造業 ⇒ 好転（麺類、建設用金属製品、薄荷製品、石材加工）
悪化（印刷、農業用機械、木材家具、弁当、ビール、松製品、鋳物製品）

建設業 ⇒ 好転（内線工事、板金、給排水）
悪化（建築、リフォーム、とび木工、管）

卸売業 ⇒ 好転（作業服、米穀、水産物、事務機器、ガソリン・灯油、設備用資材）
悪化（鉄鋼、包装、医療機器）

小売業 ⇒ 好転（眼鏡、リサイクル、靴、プロパン・灯油）
悪化（教材教具、酒類、青果、緑茶、贈答品、家電、園芸）

サービス業 ⇒ 好転（ホテル、カーリース、IT）
悪化（広告代理店、清掃、美容）

（※太字アンダーライン表示は重複該当業種）

その他及び具体的な業界の問題点等についての記載事項

【製造業】

- 原材料・光熱費など全てにおいて値上がりが続いており、商品に反映しにくい状況が続いています。ほんの些細なことでも節約になることを従業員で考え、実行していくことが大事と考えています。
- 最低賃金上昇による人件費の増加、消費税・インボイスによる税金の支払い、仕入れ代金の値上がり、それに合わせた価格転嫁が中々できない状況。ガソリンの暫定税率の廃止は良かったが、一瞬下がってまた値上されている。灯油代金も高止まり。
- 世界情勢が激変している中、為替相場による影響、原材料の高騰に加え、人件費の増加に伴う価格転嫁への対応、判断。
- 人材不足が続いている。
- 財政難の影響が大きく、今後が不安です。

【建設業】

- 働き方改革（就業環境の改善や多様な人材の活躍、生産性の向上等）への取組。
- 物価高騰により、建築費も上がり、建物が建てづらくなっている。
- 人財の確保と育成。

【卸売業】

- 円安による為替の影響や物価高騰でのコスト増。
- 為替相場、海外人件費の高騰。
- 人手不足、コスト上昇等。

【小売業】

- 人口減少、過疎化によるマーケットが縮小していく。事業規模を縮小し、人員も削減しているのに対し、経理や労務の事務の手続きが複雑化し、手間がかかる。
- 原油・原材料価格の変動の影響。
- 中心商店街で年々廃業が増えて寂しく、買い物客数の減少等で活気がなくなっているのが問題。
- 最低賃金が上がり続けるが、人材能力と生産性が追いつかない。

【サービス業】

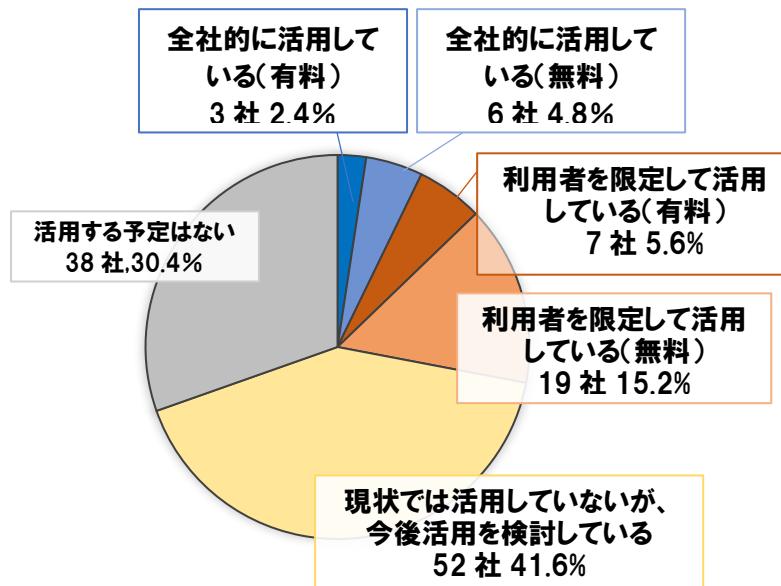
- 人材の質不足が問われている。
- 次世代を担う若手の人材不足、店舗の老朽化。
- 宿泊税の影響
- 選挙が続き、公務員の出控えが考えられるのでよくないと思われる。ゴールデンウィーク後など元々暇な時期に選挙はやってほしい。

近年、生成AIは急速に発展しています。少子化や労働者人口の減少が進む中、労働生産性の向上を図るため、生成AIの活用に目を向ける事業者が増加しています。

本調査は、生成AIの業務活用状況や課題を把握することを目的として実施いたしました。【2026年1月、回答125社】

※生成AIとは、ユーザーから入力された情報に応じて、テキスト・画像・音楽・映像などのコンテンツを生成することができる人工知能(AI)。代表的なものにOpenAI社のChatGPTやGoogleのGeminiなどがあります。

■ 生成AIの業務への活用状況



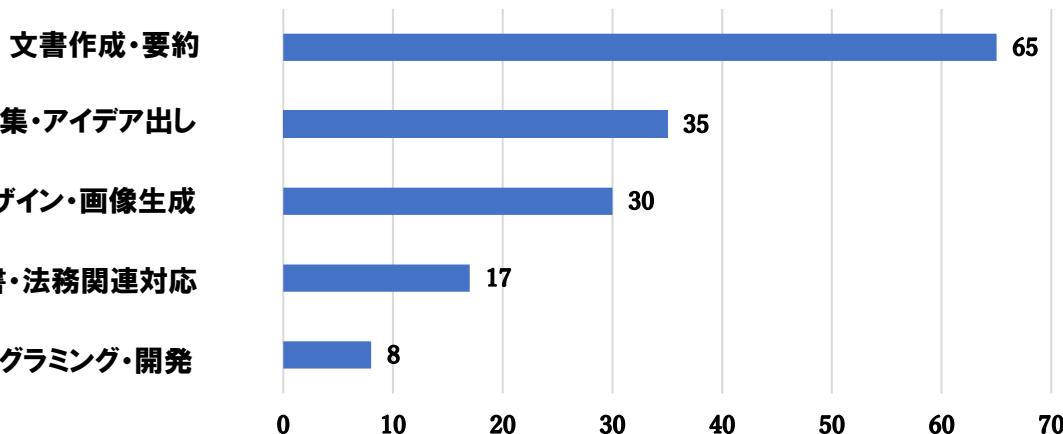
生成AIの業務への活用状況は「全社的に活用している」が計9社(7.2%)となり、そのうち有料版が3社(2.4%)、無料版が6社(4.8%)となっています。

「利用者を限定して活用している」が計26社(20.8%)となり、そのうち有料版が7社(5.6%)、無料版が19社(15.2%)となっています。

また、「現状では活用していないが、今後活用を検討している」が52社(41.6%)、「活用する予定はない」が38社(30.4%)となっています。

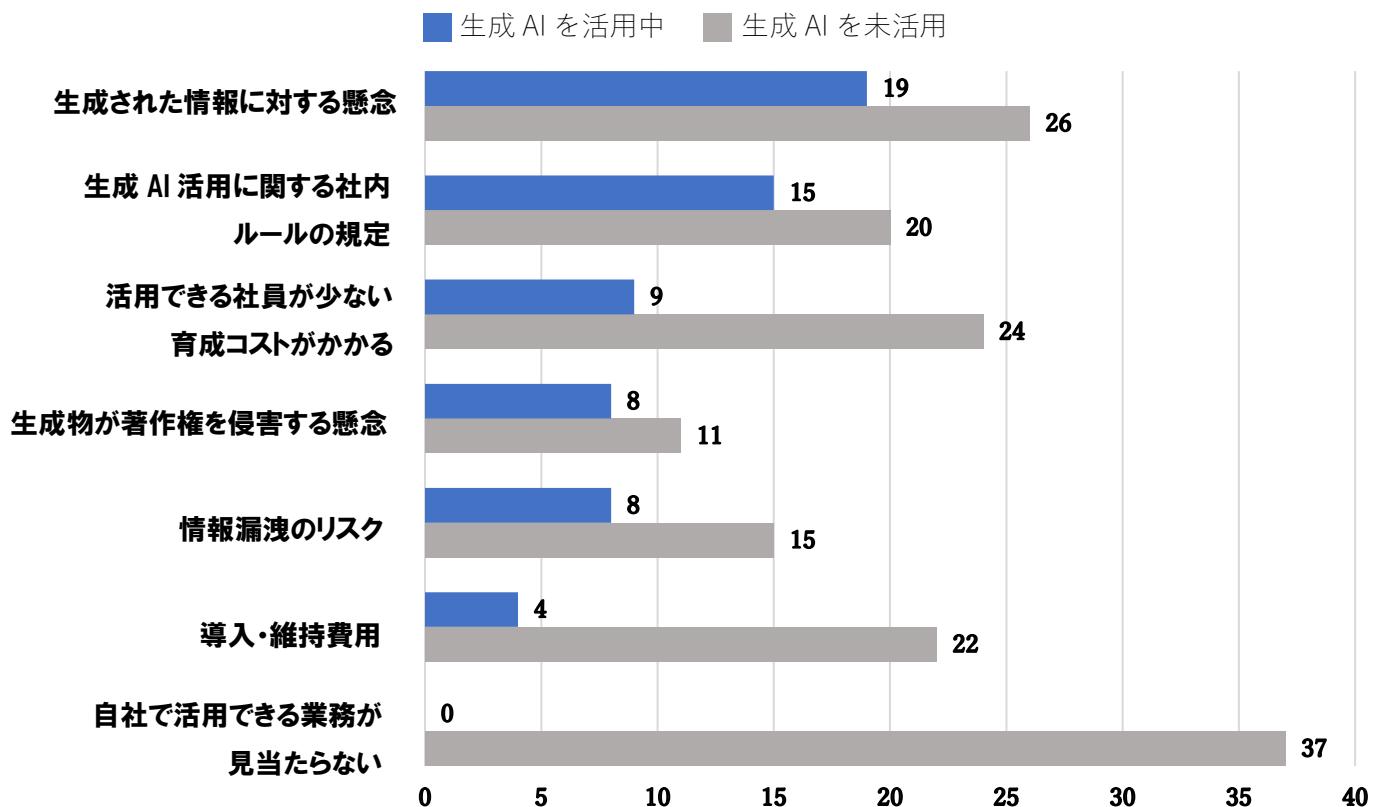
活用している企業は約3割、検討を含めると約7割となり、生成AIに対して高い関心があることがうかがえます。

■ 活用している業務について(複数回答可)



生成AIを活用(検討)している業務では、「文書作成・要約」が65件と最も多く、次いで「情報収集・アイデア出し」が35件、「デザイン・画像生成」が30件、「契約書・法務関連対応」が17件、「プログラミング・開発」が8件となっており、資料作成や情報収集などの業務に生成AIを積極的に活用されていることがうかがえます。

■ 生成 AI 活用の課題（複数回答可）



生成 AI を活用していく上での課題では、活用している企業では、「生成された情報に対する懸念」（19件）や「社内ルールの規定の必要性」（15件）が上位となっています。

一方、生成 AI をまだ活用していない企業では、「活用できる業務が見当たらない」（37件）、「生成された情報に対する懸念」（26件）、他にも「活用できる社員が少ない、育成コストがかかる」（24件）や「導入・維持費用」（22件）などの課題が挙げられています。

※生成 AI を活用中：生成 AI の活用状況について「全体的に活用」「利用者を限定して活用」と回答した企業

※生成 AI を未活用：生成 AI の活用状況について「現状では活用していないが、今後活用を検討」「活用する予定はない」と回答した企業

生成 AI に関する支援策についての意見等

- 生成 AI に関する知識補完の場を増やしてほしい。
- AI セミナーなどの開催。
- 活用事例など情報提供。
- AI の能力を引き出す能力が問われている。
- 他社も AI を使うことで逆に差別化がしにくくなる。